

# 校長室だより

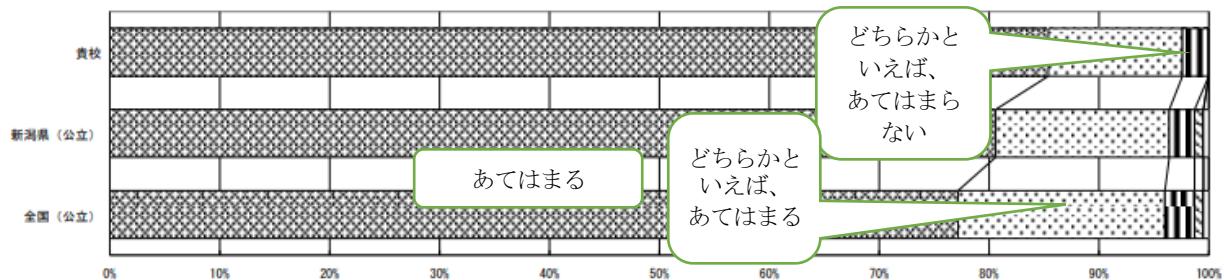
令和7年 10月 3日 (金)  
第 23 号  
十日町市立中条中学校校長室

## 全国学力・学習状況調査の結果より

8月に今年度の「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。現在、この結果を踏まえ、今後の学習や学校生活にどう反映させていくか検討しています。当校の自己有用感と人間関係づくりに関する質問の結果は、校長室だより第19号でお知らせしています。

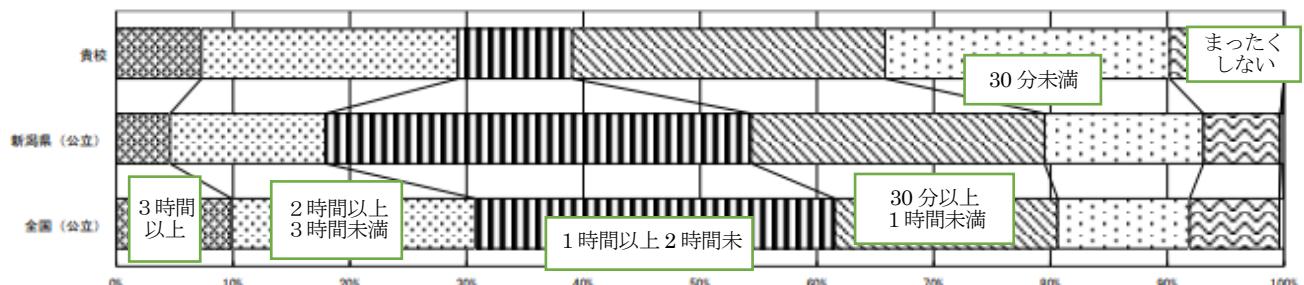
### いじめについて

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問には、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」に97.6%回答していました。これは100%にすることを目標にしています。一方で昨年も「当てはまらない」と答えていたる生徒がいました。再度、この結果を重く受け止める必要があります。中条中学校は、「いじめはどんな理由があっても許されるものではない」ことを徹底していきます。※県平均、全国平均のグラフの項目は以下の通りです。

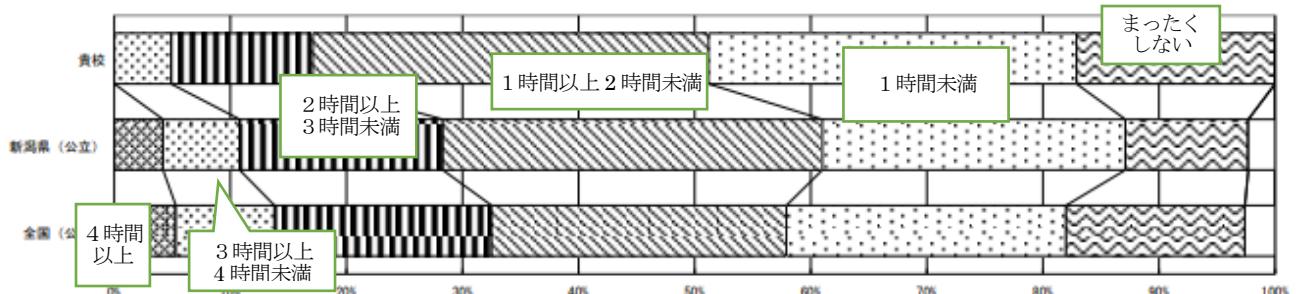


### 家庭学習時間に関する質問

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどのくらいの時間、勉強しますか。（塾や家庭教師、インターネットを活用した学習を含む）」



「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどのくらいの時間、勉強しますか。（塾や家庭教師、インターネットを活用した学習を含む）」



「学校の授業以外に、普段（平日）、1日当たりどのくらいの時間、勉強しますか」では、「2時間以上」の生徒が29.3%、「30分～2時間より少ない」が36.6%でした。「30分未満、全くしない」は34.1%でした。そのうちの「まったくしない」は9.8%（人数にすると約4人）です。昨年度よりは、学習習慣は身に付いていると言えますが、まだまだの感はあります。

休日の学習についても、県、国の平均に比べ少ない傾向が見られます。「4時間以上」がゼロなのはやむをえないですが、休日にも「全くしない」が17.1%いるのも気になります。

ここにはデータを載せませんが、全国、県と比べて大きく違うのは、「塾や家庭教師（オンラインを含む）に教わっていますか」の設問で「教わっていない」が78%（県51.3%、全国40.2%）いることです。しかし、これは逆の発想で言えば、塾や家庭教師に行かなくても、この学年はかなりの学力を持っている証拠と言えます。是非自信をもってほしいと思うのです。

4月のデータではありますが、3年生にとっては、そろそろ力を入れる時期だと思います。

学校の授業だけで学習すべき内容がしっかりと定着すればいいのですが、学校で学んだことを復習したり、事前に調べたりする予習に取り組んでこそ、しっかりととした学力に結び付くと考えます。

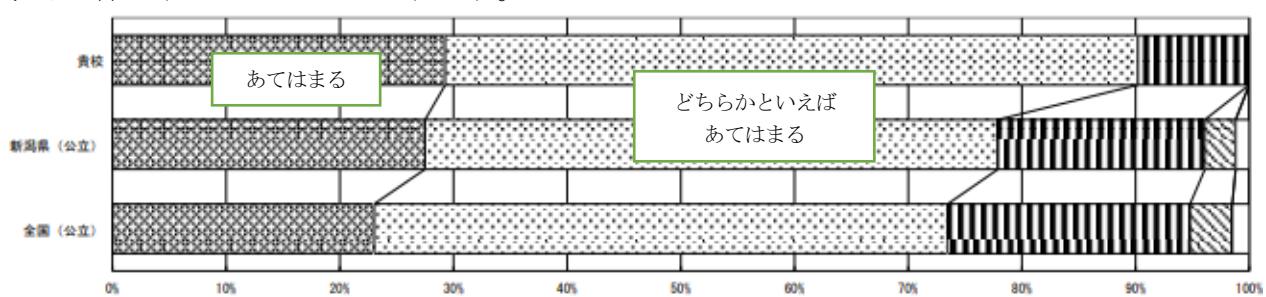


家庭学習の時間だけがすべてだと考えてはいません。大切なことは「質」だと思います。受験用教材の取り組み状況はいかがでしょうか。ただ、漠然と問題に取り組むのではなく、「どうしてそうなるのか」「なぜそうなるのか」と、いわゆる「知的好奇心」を働かせてみることが大切です。受験用教材で分からぬところを1人1台端末で調べる、検索するなど、自分からやってみることは記憶に残りやすいと言われています。基礎基本を確認するには、「ドリルパーク」の活用を是非ともお願ひします。



### 振り返り、メタ認知に関する質問

「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか」という質問に、肯定的な回答は90.3%（昨年度85%）でした。この質問こそ、「メタ認知や振り返り、自己調整の力」に関わる質問です。肯定的な回答が、県平均、全国平均を上回っていることはとても素晴らしいと思います。まさに現行の学習指導要領が求めている力です。自分の学習状況を客観的に見て、何が苦手か、どんな面が分からぬのかを明確にして、その点を深めたり調べたりしながら学習を進めることができれば、それこそ、「主体的な取組」であり、大いに力を付けられるはずです。先ほどの「知的好奇心」を最大限に働かせる学習方法を身に付けることができたら、学習時間も伸びて、確実に学力を伸ばすことができるはずです。



### 令和5年度校長室だより第21号より

「知的好奇心」とは、「物事に対して興味や関心を抱き、もっと深く知りたい、深く調べたい」という欲求や気持ちです。知的好奇心は、子どもの学習意欲や創造力を高めるだけでなく、学びのサイクルを作り、ストレスに強くなるなどのメリットがあります。知的好奇心を育むには、子どもの興味を尊重し、質問や発見をほめる、本やインターネットなどの情報源を提供するなどの方法が有効です。」知的好奇心を育むには、教師や保護者の働きかけが大切であることが読み取れます。「質問や発見をほめる」ことは、すぐにでもできそうだと思いますか。